



大阪外国語大学グリークラブ
OB合唱団
ミニコンサート

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団 ミニコンサート

2003年1月26日(日)

上田安子服飾専門学校 本館 6F ライラックホール
午後2時30分開場 午後3時開演



プログラム



Gaigo Will Shine Tonight / Varsity / 大阪外国語大学学歌

第1ステージ

黑人靈歌 (Negro Spirituals)

I Got Shoes / Let Us Break Bread Together

O My Golden Slippers / There Is a Balm in Gilead

Didn't My Lord Deliver Daniel?

合唱：大阪外国語大学グリークラブOB合唱団

第2ステージ

無伴奏混声合唱組曲 「柳河風俗詩」 北原白秋作詩 多田武彦作曲

I 柳河 II 紺屋のおろく III かきつばた IV 梅雨の晴れ間

合唱：混声合唱団メルヴェイユ

第3ステージ

無伴奏男声合唱組曲 「雨」 伊藤整ほか作詩 多田武彦作曲

I 雨の来る前 II 武蔵野の雨 III 雨の日の遊動円木

IV 十一月にふる雨 V 雨の日に見る VI 雨

合唱：大阪外国語大学グリークラブOB合唱団

ごあいさつ



大阪外国語大学グリークラブOB合唱団の第1回（あえてこう呼びます）ミニコンサート開催おめでとうございます。

残念なことに、大阪外大では男子学生率が年々低下し、数年前にグリークラブが消滅しました。一方OB諸兄の活動が活発化し、東京、大阪を中心に二つのグループが活動を始め、両地でミニコンサートを催したり、各種合唱際に参加するようになったことはご同慶の至りです。

大阪外大グリークラブは、あの有名な清水脩さん（昭和七年卒・故人）や最近亡くなられた佐原真さん（昭和三十二年卒・考古学者で元国立歴史民俗博物館館長）らを先輩に持つクラブです。

この傳統あるグリークラブの灯を守り、今回このようなコンサートを大阪の地で開かれたことに重ねて祝詞を申しのべます。今日、諸兄の十八番の黒人靈歌などのハーモニーを聞かせていただくことは至福の至りであります。

終わりに、外大グリークラブOB合唱団の彌栄とOB諸兄のますますのご健勝を心から念じあげましてご挨拶とさせていただきます。

大阪外国語大学名誉教授・元大阪外国語大学グリークラブ顧問 山口 慶四郎

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団のミニコンサートにようことお越し下さいました。

1996年1月31日突然現役部員から電話で日航ホテルに呼び出されました。1年後の1997年1月OB合同演奏会を企画したいと言うのです。現役（南野・松尾）からの相談を池田守氏と僕が受けました。そのときOB合唱団を立ち上げられないかと考えました。あれから7年が過ぎました。創部70周年（1997年1月）はOB合同「月光とピエロ」、71周年には「海鳥の詩」を呼びかけて林誠先生に振っていただきました。2回とも下振りをさせていただき全ての練習に出ました。愛唱曲はOB単独を私が指揮しました。

その後、大阪は休眠状態が続きました。

2000年3月、クラブに蓄積されていた楽譜の一部が宅急便で私のもとに送られてきました。現役部員がいなくなっています。

練習場を確保し、OB諸氏に呼びかけて創部75周年演奏会を企画しました。2001年5月20日OB合唱団（大阪）の練習を始めました。しかし75周年記念演奏会は結局実現しませんでした。それでも少しずつメンバーも増えて、関西男声合唱祭（バッカスフェスタ）に2年連続黒人靈歌で出場し好評を得ました。箕面・もみじの里音楽祭（2002年11月10日）に招待され、「月光とピエロ」を須賀敬一氏の指揮で歌いました。

そして今日お陰さまで全国のOBが大阪に集結し、念願の創部76周年記念ミニコンサートを開催する運びとなりました。1993年に私が創設した混声合唱団メルヴェイユが立派に成長して賛助してくれます。これほど嬉しいことはありません。合唱離れが言われる昨今かつての名門大学グリークラブは軒並み数を減らし、そのOB合唱団はどこも分裂しています。このささやかなOB合唱団が「大阪外大グリー」という希有の存在に育まれた音楽人という立場で年代や立場や考えの違いを克服し大同団結して、「親父も歌う」ことを世間の方々に示せれば又さらにこれほど嬉しいことはありません。重ねて多数のご来臨を感謝します。本日は伝統の黒人靈歌・華やかな混声合唱による北原白秋「柳河」・一転して水墨七彩の深みある男声合唱組曲「雨」と盛りだくさんのプログラムをゆっくりとお楽しみください。

指揮者 河原 敬

本日は、私達「大阪外国語大学グリークラブ」OBのミニコンサートに、お運びいただき厚くお礼申し上げます。

「大阪外国語大学グリークラブ」は1957年に、戦後第1回の演奏会を開催し、1998年まで、演奏活動を続けてまいりました。現在は、残念ながら廃部の状態にありますが、その間には、毎年定期演奏会を開催し、外大の特色を生かした演奏を続けてまいりました。これも、1998年以降、途絶えてしまいました。そして、OBの集まりも、自然に途絶えてしまった状態になりました。

この現状を打破すべく、関西在住のOBの有志が集まり、練習を重ねてきましたが、今日はその成果を皆様にご披露させていただく事になりました。東京で、練習を積んでいるOBの皆さんへの応援を得て、今日この会を開けることになったことを、喜んでいます。

メンバーの中には、30年以上もの会社生活で、すっかり合唱活動から離れていたOBもいます。その一方で、多忙な会社生活の中で、卒業後も合唱活動に励んでいるOBもいます。それぞれが、学生時代を思い出しながら、精一杯の演奏を行います。どうぞ、暖かく、ご声援下さい。

今日のミニコンサートは、将来、もっと多くのOBの皆さんのが集い、本格的な演奏会を開ける日を楽しみにしながら、その一歩を踏み出すコンサートと位置付けています。

これを機会に、ぜひ、まだ参加されていないOBの皆さんのご支援、ご協力をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、今日のコンサートには、混声合唱団「メルヴェイユ」の賛助出演を頂きました。ご協力に感謝に意を表します。また、会場を提供していただいた上田安子服飾専門学校の関係者の皆様にも、心からお礼を申し上げたいと思います。

それでは、ささやかなコンサートですが、お楽しみいただきたいと思います。

大阪外国語大学グリークラブOB合唱団 関西代表 岡田 吉治郎

曲 目 解 説

第1ステージ 黒人靈歌 (Negro Spirituals)

I Got Shoes (天国の靴)

シンプルな編曲だが印象的な強いものを持った曲。「Heaven」と繰り返し出てくるがその和音の変化が聴きどころ。最後の[n]の音にも注目してください。

Let Us Break Bread Together (パンを頒けよう)

もともと秘密集会の暗号として歌われたが後に聖餐式にも歌われた。イスラム的イメージの強い曲。Lord! Have mercy on me. (主よ！憐れみたまえ！)と繰り返す美しい祈りの曲。

O My Golden Slippers (金色の靴)

西アフリカの伝説として聖なる人は靴をはき上等のローブを身にまといハープを弾いて天に昇るという。リズムの極端な変化がとても面白い曲。

There is a Balm in Gilead (ギリアデの香油)

ヨルダン川ガラリア湖の東ギリアデにはよく効く薬がある。魂を癒す薬とはイエスそのものを象徴している。美しいメロディはまさに「癒し」の時代にふさわしい。

Didn't My Lord Deliver Daniel? (主はダニエルを救いたもう)

ダニエルといえばライオンの穴に投げ込まれ試みられた人である。ヨナ（ヨナ）は魚に飲まれた人である。ヨブといえば毒虫・皮膚病の試練で苦しんだ人である。エリアは預言者で命がけで王を諫めた。チャリオットに乗って天に昇った人として有名である。旧約聖書の有名な聖人とその奇跡を歌う。「彼らが救われたのだから俺たちも大丈夫だよなあ？」

第2ステージ 混声合唱組曲 「柳河風俗詩」

北原白秋作詩 多田武彦作曲

多田武彦の合唱組曲「柳河風俗詩」は白秋の生まれ育った九州柳河（現・柳川）市の観光ビデオのようである。11月2日に柳川市では北原白秋忌があるようで行ってみたいと思っているのだがまだ望みを果たせないでいる。

廃屋となった娼館や生家の酒屋、餽（す）えた匂いのする掘割運河、赤い頭が水面に見え隠れすると灯りがともったように見える水鳥（けつぐり・カイツブリ）。ongo（良家の子女）が芸妓に身を落とし爪弾く三味線、その化身のような杜若（かきつばた）、一転して、抜けるような青空の下「梅雨の晴れ間」に水天宮で催される田舎歌舞伎、演目は「義経千本桜」。親狐の皮で作られた初音の鼓を慕って健気な活躍を見せる狐忠信。今はもう変わり果てて存在しないであろう白秋の故郷「柳河」は詩集「思ひ出」に収められたタイムカプセルである。

多田武彦が就職か音楽かと迷って作曲の師清水脩先輩に相談した。「日曜作曲家という道もある」と方向が決定した。師弟の協同作業として男声合唱組曲「柳河風俗詩」は生まれた。処女作でありまたもっとも愛され続けている合唱組曲がこうして生まれた。

大阪外語グリークラブのOBとして清水先輩の流れにつながる私が学生指揮の卒業曲にこれを選び、また後に自ら結成した混声合唱団でグリーOB演奏会の贊助として本日演奏する。これも何かのめぐり合わせであろう。曲自体は短いが実に多様で変化に富む。弦楽四重奏を聞くような絶妙の間合いをお楽しみください。

第3ステージ 男声合唱組曲 「雨」

伊藤整ほか作詩 多田武彦作曲

「花の色はうつりにけりないたづらに我が身世にふるながめせしまに」（古今集・春下）

日本人は「雨」がことのほかお気に入りである。ものを見る「眺める」と「長い雨」とを掛詞に用いたこの歌は技巧的にも情緒的にも一つの小説的世界を感じさせる。名歌である。「時雨」「五月雨」「霧雨」「にわか雨」「穀雨」「春雨」「驟雨」「雨月」「水雨」雨にまつわる日本語は陰翳に富んで豊かである。「長い雨に籠められて人を恋いつつ訪れを待ちながら外を眺める」無常の憂き世、でもいつまでも私は貴方を待っているのですよ。男声合唱組曲「雨」はこういう伝統をもつ日本人が紡ぎ出した「雨」のアンソロジー（詩花集）である。

I 雨の来る前 伊藤整作詩

夏の雨はいきなり降ってくる。家人に洗濯物を取り込む余裕も与えず突然夏の雨が降る。しかし部屋で小説や誌を書く筆者の頭は気圧の変化を察知して重く沈む。ペンは進まない。呼応するかのように低く飛ぶツバメ。しかし夏の夕立は人の頭を奇跡的に正常に戻し地上の全てのものを生き返らせる。昭和35年度合唱コンクール課題曲入賞作品。

II 武蔵野の雨 大木惇夫作詩

騙し絵で有名な版画家M.C.エッシャーの作品「昼と夜」「メタモルフォーゼ」を思わせる。この

曲は私が知りうる男声合唱曲中もっとも美しい。なぜそう思うのかはわからない。理由がわかるとそう思わなくなるので知らないふりをしている。いつか武蔵野の高台に登って、雀の大群を追いかけるように平野を走る雨を見てみたい。目を瞑るとクヌギの焼け付くような強い匂いが立ち込めている。

III 雨の日の遊動円木 大木惇夫作詩

雨にぬれて誰も乗らない遊動円木。普段は白く埃っぽいが雨がふると黒くぬれてコントラストが美しい。学校や公園など多くの人が集まるところの人の居ない寂しさ。今はもう秋。なぜ詩人はこんなところで立ち尽くしているのだろう？三連符の揺れと細かな子音が不思議な描写音楽的效果を産みだしている。

IV 十一月にふる雨 堀口大學作詩

硬い冷たい「初冬の雨」が現実を表すとすれば「みやび漢（おとこ）」はロマンや夢や理想を象徴している。一部差別的表現を含むが文学的意図を考慮して原曲のまま演奏する。

V 雨の日に見る 大木惇夫作詩

グリークラブに入つて初めての夏合宿、恒例のカルテット大会の課題曲がこの曲であった。定期演奏会でこの曲だけは自信を持って歌つた。レシタティーボが印象的な曲。

VI 雨 八木重吉作詩

この曲をレクイエム（鎮魂歌）と考えるのは甚だしい誤解である。この詩ほど熱い思いに満ちた「命の歌」を私は知らない。天台の教えに「一隅を照らす（照宇一隅）」がある。「音もなく世界をぬらし潤す雨」にふと気付いたとき詩人は生きる理由（raison d'être）を見つける。終わりではない。将にここから生きることの血みどろの闘いが始まるのだ。この曲を終曲に持つことで組曲全体が日本人による見事な「生命への讃歌」へと変貌を遂げる。男声合唱数ある名曲中の名曲である。

(解説：河原 敏)

指揮者プロフィール



河原 敏 (かわはら たかし)

昭和29年堺市生まれ・大阪外国语大学グリークラブOB・英語科卒
大阪外国语大学グリークラブOB合唱団・混声合唱団メルヴェイユ・メルヴェイユジュニア指揮者
元桃山学院大学文学部講師・和泉市合唱連盟理事

OB 達からひとこと

赤坂 一郎 (ベース：大阪府吹田市)

私はハーモニカすら買つてもらえなかつた子どもの頃は音楽は苦手でした。外大グリーと出会い身体が楽器になる楽しさを知りました。大勢で響きあうすばらしさ！華麗美以上に重厚美の故に男声合唱が好きになりました。

上田 哲也 (トップテナー：大阪府堺市)

ロシアから帰国して会社を辞め、大阪に戻つてかれこれ2年ですが、最大のショックはグリーが廃部となつて現役が居ないこと。OBは現役よりも良い演奏はできないと信じていますが、悪あがきでミニコンサートを開

きます。外大グリーOBは東京も大阪もなくて唯一無二なので、これを期にあまり技術レベルを気にせず気軽に集まりましょうね。

大木 周 (セカンドテナー：大阪府高槻市)

現役時代から歌は決して上手ではなかったのですが、力いっぱい歌うことを心がけてきました。本番でも当時のパワーを発揮できるよう頑張ります。

岡田 吉治郎 (ベース：奈良県奈良市)

卒業以来の長いブランクを、何とか埋めるため、譜読み、発声等、昔の事を思い出しながら頑張っています。歌っていると懐かしい気分に浸れるのが何よりの楽しみです。OB諸君がその気になれば何時でも参加できるように、この集まりを続けたいと思っています。時間の許す人から、どんどん参加してください。

紙谷 敬治 (バリトン：大阪府東大阪市)

どんなに年を取っても歌心だけは持ち続けて生きて行きたいと願っています。

河原 敬 (バリトン：大阪府和泉市)

グリーのお陰で合唱に触れ、今では家族全員で音楽に浸っています。混声も児童合唱もアンサンブルもそこから生まれて育ちました。だから今日は僕にとって25年ぶりの帰郷というわけです。

河盛 龍三 (バリトン：大阪府堺市)

近いうちにCMに出演して報酬をUNICEFに寄付するレベルになる。

岸本 保 (バリトン：神奈川県川崎市)

技術が高度で人数も多い混声合唱より、人も集まらず技術もそれなりな男声合唱のほうが歌ってて楽しいことが分かりました。でも、技術ももう少し頑張って人数も多い男声合唱なら最高、今日はどうかな？

北村 照夫 (トップテナー：兵庫県高砂市)

日曜の練習が長年所属している神戸中央合唱団と重なるため、他のメンバーの方にご迷惑をかけております。15歳から歌い初めて、30年休まず歌い続けております。歌はライフソークになってしまいました。

佐伯 博史 (バリトン：兵庫県川西市)

卒業後グリー式発声を捨て演歌の道一筋。帰郷本能により20数年振りに合唱を再開。最近器楽にもはまっている。本日は主旋律を受持つテナーを羨望しつつ、難解な中音域を目立ち過ぎないよう品良く歌おう！

坂居 孝二 (トップテナー：兵庫県尼崎市)

昔、パンツを脱がされた大関屋での打ち上げを楽しみにしています。先輩から指揮者は手で振るんじゃない、Xンで振るんや！！と教えられました。

榎原 昭裕 (バリトン：大阪府高槻市)

道なお途上、清水先輩の天の声に耳を傾け、21世紀に外語ハーモニーを輝かす事が我々の使命と信じて。カッコよさで売るグリーもあるが、私はさわやかでカワイイ外大グリーが好きだ。歌心はポーズではない。

新出 武雄 (バリトン：ワシントンDC, USA)

米州開発銀行ワシントン本部のコーラス部が一昨年立ち上がり、創立メンバーの一人としてラテンのおばさんたちと一緒に歌っています。皆さん基礎がないので私はほとんど専門家扱いされています。ミニコンの成功を祈っています。

菅原 基晴 (セカンドテナー：大阪府柏原市)

OB会もミニ・コンサートを開くまで成長し、先が楽しみです。欲を言えば、若いOBの積極的賛歌が望されます。もう少し参加者が増えれば、実力者そろいの本領発揮が期待できます。礎となるつもりでしたが、若いOBたちに元気をもらっています。

村主 寧民 (ベース：大阪府枚方市)

先日知人に、今コーラスを楽しんでいますと言ったところ、「人体の器官の中で、声帯は老化の進行が遅い方らしいですよ。」と励まされ（？）ました。歌心と向上心をいつまでも持ち続けられれば良いなと思っています。

柳楽 行雄 (トップテナー：大阪府枚方市)

卒業してから32年、現役時代は何とかサボろうとしていた問題児が今ごろになって合唱が好きになりました。他の男声合唱団と掛け持ちでやっていますが、年代は違えど同じ釜の飯を食べた仲間と歌うのを楽しんでいます。

野田 大祐 (バリトン：東京都目黒区)

大外大グリークラブ再興を悲願として生きています。大阪だ東京だと言わず、全世界で声を合わせたいものです。インターネットはすばらしい発明。先ずMLを強化して、リストを拡充しましょう。

松村 尚人 (バリトン：兵庫県西宮市)

10数年ぶりに楽譜を手に持ちました。再び外大G L E E の声に交わることができて嬉しいです。昔、大関屋の献立表がなぜか私の下宿に貼ってありました。あじの塩焼きは220円でした。その大関屋が楽しみです。

三森 良太 (ベース：大阪府岸和田市)

親元を離れて1年、ようやく自立していく自信が少しついたかな?と思います。これからは新しいことや過去にできなかったことなどを積極的に挑戦していきたいと思います。

山口 壮 (セカンドテナー：滋賀県長浜市)

寸分の狂いもなく、ぴったりと息の合ったハーモニーを奏でられたときの感動は他にたとえようがありません。これこそまさに「至福の時」です。そんな感動を一瞬でも味わえたら、そしてお越しくださった方々にも味わっていただけたらうれしいですね。



Members



大阪外国语大学グリークラブOB合唱団

Top Tenor	Second Tenor	Baritone	Bass
五十嵐 強	大木 周	紙谷 敬治	赤坂 一郎
池田 守	坂居 孝二	河原 敬	岡田 吉治郎
上田 哲也	菅原 基晴	河盛 龍三	神田 正見
北村 照夫	山口 壮	岸本 保	村主 寧民
柳楽 行雄		佐伯 博史	樽井 一仁
		榎原 昭裕	三森 良太
		野田 大祐	
		松村 尚人	

混声合唱団メルヴェイユ

(賛助出演)

Soprano	Alto	Tenor	Bass
荒木 佳代	河原 明美	越智 俊博	大谷 毅
糸川 美和子	河原 結花	下村 真	中川 勉
河原 麻衣	竹林 久仁子		白石 和也
林 ひろ子			三森 良太

メルヴェイユの皆さんに心より感謝の意を表します。また、越智さんと中川さんのお二人にはグリーOB合唱団の演奏にもご助力いただきました。重ねてお礼申し上げます。

<表紙> ザボンの花

<パンフレット、チケット、チラシ制作> 山口 壮